



営農組合の発展的支援策と 農業者応援事業の提案による JA 未利用・低利用者の呼び戻し

久保 喜久男

佐賀県・JA さが 生産資材部 肥料農薬資材課 杵藤エリア担当 TAC

※本稿は2021年11月に行われた TAC パワーアップ大会での発表より構成しています

JA さがの概要

当 JA は平成19年 4月 1日に設立し、正組合員 3万8,478人、准組合員 5万2,600人の合計 8万8,738名となっています。

主な農畜産物は、米の全国食味ランキング11年連続特 A の「さがびより」、4年連続特 A の「夢しずく」、麦、大豆です。野菜にはいちご、全国生産量第2位の玉ねぎ、アスパラガス、キュウリ、果樹ではかんきつ、なし、ぶどう、特産のお茶、畜産では全国的にも有名な佐賀牛、肉豚、プロイラーとなっています。



TAC の設置・活動状況

TAC の主な役割は、①経済事業を切り口に担い手へ出向き、低コスト・省力化等、農家手取り最大化の具体策を提案し、JA 利用満足度を高めること、②担い手への対応を迅速に行い、意見の中身を十分に検討し回答する（フィードバック）機能を強化し、JA 事業の利用度アップを図ること、③担い手からの情報収集を行い、その中身を分類・分析することで、担い手目線としての JA 事業の立案・改善の“キッカケ”を作ること、となっています。

TAC の設置状況は図の通りとなっており、令和 2 年度より専任体制とし、管理体制については、本所・拠点の一体的な事業展開による体制

となっています。

TACの週ミーティングをエリアごとに開催し、前週の活動内容の報告、TAC間での情報共有、今週の活動予定、意見交換、担い手農家からの意見要望や協議を要する事項の確認を行います。また、月例会を毎月開催し、役員、生産資材部等関連部署からも参加していただき、月間テーマの活動内容・進捗、各部門の連絡事項を確認します。担い手からの意見・要望を直接役員へ報告できることが強みです。

TACの設置状況

J A さ が 生 産 資 材 部 肥 料 農 業 資 材 課	佐城エリア担当TAC
	・佐城地区：4名 ・中部地区：2名
	三神エリア担当TAC
・TAC管理者：1名 ・県域TAC担当者：1名	・東部地区：2名 ・神埼地区：2名
	杵藤エリア担当TAC
	・みどり地区：3名 ・白石地区：2名

月例会・TACミーティング

会議体	TAC週ミーティング	月例会
開催頻度	エリア単位 毎週開催	毎月開催
出席者	TAC管理者	役員 生産資材部・農産部 園芸部・金融部 担い手SC
内容	<ul style="list-style-type: none"> 先週の活動内容の報告 (TAC間での情報共有) 今週の活動予定・意見交換 担い手農家からの意見・要望や、協議を要する事項の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 月間テーマの活動内容・進捗 担い手からの意見・要望を直接役員へ報告 各部門の連絡

1か月の活動サイクル



集落営農組合組織の発展的組織への転換支援

担い手からは、「中山間地域で、集落営農組合組織の構成員のほとんどが兼業農家で高齢化しているが、後継者ができない状況である」「裏作の麦作が衰退し、一部では水田遊休地が発生している」との意見・要

望があげられました。また、集落営農組合組織の代表者は、「みんなの所得を確保したい」と経済的メリットの意識が強いほか、農事組合法人の組織では、従事分量（枝番方式）での組織が多く、生産関係の事務が煩雑で、事務員確保も難しい」などの意見・要望もありました。

(1) 集落営農組合組織の転換支援

① 当初の提案内容と担い手の反応

佐賀県の「それぞれの中山間地チャレンジプロジェクト」を提案しました。「それぞれの中山間地チャレンジプロジェクト」とは、県・市町・JAが連携し、中山間地域のそれぞれの集落や産地の生産者、住民とともに、課題の抽出や解決策の検討を行い、目標の実現に向けた取組みを進めていくプロジェクトです。

普及センターの提案で、外部講師を招いて講演・研修会・討議を開催しましたが、招集範囲が4集落と広すぎ、毎回参加者が異なるため、認識に格差が出始めてきました。そこで集落を巡回訪問しているTACへの参加要請がありました。

② 「その後」の取組み・提案内容

まずは話し合いの場作りを各地区で開催しました。構成員である耕作者、土地持ち農家へのアンケート調査を行い、見えてきた課題は、「遊休農地の解消」「個人ごとの圃場が点在している」「利用権未設定」「オペレーター不足」などがあげられ、皆で話し合いできることから検討し、実行しました。



集落営農組合組織との話し合い

将来にわたって集落の農地を担っていくのかを話し合って明確化しました。また、畜産部会と連携し、WCSの団地化で遊休農地の解消を図りました。

農繁期には、地区内の非農家、構成員家族、消防団などにオペレーターへの参加の呼びかけを行いました。利用権未設定の農家では遺産相続

がされておらず、地元の行政書士の助言を得て、3軒から4軒の遺産相続、利用権設定ができ、免税軽油の配布ができるようになりました。

(2) JAの生産資材コスト低減策の提案

① 当初の提案内容と担い手の反応

肥料、農薬の集団での取りまとめ（共同購入）を提案し、大型規格の水稲箱剤、除草剤、茎葉処理除草剤200ℓ規格を推進しました。それまでは「各構成員でそれぞれ申し込みを行っているから」「商系から購入していて、JAから買うと高い」「少し高くても自宅まで届けてほしい」という意見がありました。

② 「その後」の取組み・提案内容

集落営農組合組織へJAグループ佐賀独自の取組みである「農業者応援事業」を提案しました。「農業者応援事業」とは、満車直行や大型規格の利用拡大、中山間地の農業生産の継続、情報通信技術を活用した低コスト・省力化等の導入経費の一部助成事業です。

具体的に、フォークリフト導入事業では、10台の予定が30台、中山間地支援事業（トラクター導入助成）は、10台の予定が16台、産業用マルチローターは、30台の予定が51台と、大幅な予算オーバーでしたが、役員のご理解により、すべてが採択となりました。

③ 最終的な成果

農業者応援事業に取り組んだ結果、全農集中購買・肥料事前大口予約購買の利用につながりました。「肥料事前大口予約購買」とは、JAグループ佐賀独自の取組みで、全農集中購買+JAグループ佐賀で取扱っているBB肥料を加えた予約購買で、条件的には、20kg袋を500袋以上、10t以上満車直行となっています。

また、農家の意識改革へつながり、ロットを大きくして購入すればコスト低減になると、商系からの呼び戻しもできました。

担い手からは、「農業者応援事業で農地の維持管理ができ、共同購入でコスト低減ができた」と声があがっています。

担い手農家へ農業者応援事業の提案によるコスト低減策の提案

担い手から、「JA と組合員との関係が希薄になっている」「農産物の価格上昇は望めない。省力化・生産資材でのコスト低減を図るしかない」「多様なニーズに必要な情報をつないでほしい」と意見・要望が集まりました。

(1) 当初の提案内容と担い手の反応

これらの要望に対し、出向く活動が重要だと感じ、毎月1回以上の訪問、特に苦手な農家は月初めに訪問するようにしました。また、大規模農家への満車直行・直引きの提案、担い手農家との情報のキャッチボールを重ねて、TACの認知度の向上を図りました。

当初の担い手は「今日は何をしに来たのか」「何を売り込みに来たのか」という反応が多かったです。

(2) 「その後」の取組み・提案内容

担い手には農業者応援事業を提案し、フォークリフトの導入により、肥料事前大口予約購買の利用を促進しました。採択条件は、コメ・麦作付け5ha以上、園芸作物作付け2ha以上であること、肥料満車直行や農業大型規格等、生産資材コスト低減に向けた取組みの実施、フォークリフト運転技能講習修了証の所持、年1回の年次点検の実施などです。補助率は、本体価格（税抜）の40%を上限に助成する内容となっています。

(3) 最終的な成果

大規模担い手に対し、「情報の伝達、営農相談、事業紹介、商品紹介、融資、共済」のきめ細かな対応により信頼関係を構築できました。加えて、コスト低減策の説明など、根強いTAC活動

肥料農業事業のコスト低減策概要

JAの肥料農業事業は、JAが組合員にできるだけ安く、良質なものを安定的に供給しようとするものです。
 予約購入は、組合員から予約注文を受け（JAに結集していたく）ことにより、スケールメリットをいかしてメーカー等と交渉し、低価格・安全・良質の生産資材を提供します。

【予約購入のメリット】	
通常の価格	店舗等の通常価格から約●%安く供給いたします。
代金決済	予約購入は、通常より早く代金決済日を指定できます。 【受渡済】購入・令和3年9月～12月（代金決済日・翌年9月）

以下にコスト低減策の概要をご案内します。多くの皆様のご活用をお願いします。

肥料のコスト低減策を活用すれば、

通常の価格 約●% 割引率	+	満車直行 最大 ●% 割引率	+	大口契約 最大 ●% 割引率	=	適用価格 【メリット】 約●% 約●%
さらに、大型規格の活用でメリット拡大						

農具のコスト低減策を活用すれば、

通常の価格 約●% 割引率	+	予約納品 +α 割引率	+	大口契約 最大 ●% 割引率	=	適用価格 【メリット】 約●% +α%
さらに、大型規格の活用でメリット拡大						

※「予約納品メリット」を前掲に併用し、割引率が拡大している場合があります。
 <詳細は、JA担当部署・担当へお問い合わせ下さい>

佐賀県農業協同組合

コスト低減策チラシ

を行ってきたことで、集団での取りまとめによる購入につながりました。

また、農家の薬剤散布に関するノウハウは弱いため、マルチローター導入者には農薬散布等の混用表を作成するなど、情報提供を実施しました。担い手からは「大変助かる」と好評で、農薬のJA利用につながりました。

今後の展開

本年、組合員2名が病気になり、農地管理が非常に難しいため、農地の管理を交換することで農地集約を行っていきこうという話になりました。そのため、集落内での農地の管理を集落営農組合を通して交換し、農地は地区で管理し、農地集約により作業効率UPを図ろうと考えています。

また、中山間地のため、大豆を播種しても双葉の時にウサギに食べられ生育が止まる、収穫時にイノシシが来て暴れるなど、圃場条件の悪いところでは、WCSの作付けによる鳥獣害防止に取り組んでいます。

近年は、大型規格除草剤、箱剤の推進に力をいれてきました。佐賀県では大きなウンカ被害が出ましたが、私たちの地域ではほとんどウンカの発生もなく、大型規格農薬を推進して本当によかったなと思っています。

